

ほ けきょう いわ みなじっそう あいはい
 法華經に云く「皆実相と相違背
 せず」等云云、とうんぬん てんだいこれ う いわ
 くと「一切世間の治生産業は皆実相
 あいはい とうんぬん ちしゃ
 と相違背せず」等云云、智者とは
 せけん ほう ほか ぶっぽう おこなわ せ
 世間の法より外に仏法を行ず、世
 けん ちせい ほう よ よ ところ そうろう
 間の治世の法を能く能く心へて候
 ちしゃ もう
 を智者とは申すなり

(御書 1466 ページ)

通解

法華經の法師功德品第19には、「(法華
 經を受持し抜いた人が世間のいかなること
 とを説いても) みな実相に違背しない」と
 あり、天台はこれを承けて「世間一般の生
 活のための仕事や、なりわい等の社会的行
 為は、みな実相に違背しない」と言ってい
 る。

智者とは世間の法以外に仏法を行ずる
 のではない。世間において世を治める法を
 十分に心得ている人を智者というのであ
 る。

 こんぽん
 信心根本に成長の夏を！

よくわかる解説

本抄は、日蓮大聖人が建治2年(1276年)ごろに
 認められたお手紙とされ、駿河国(静岡県中部)の門下・
 高橋六郎兵衛入道が亡くなった後、その縁者に送られた
 ものであると考えられています。

題号の「減劫」とは、人々の心の貪瞋癡(貪り・瞋り・
 癡か)の三毒が盛んになるにしたがい、人間の生命力が
 衰えていく時代のことです。

御文では、法華經やそれについての解釈を引用され、
 生活や社会の事象は、全て仏法そのものであることを確
 認されます。だからこそ、真の「智者」とは、世間の法
 に即して仏法を行ずるのである、と仰せになっていま
 す。

社会は今、転換期にあります。さまざまな問題を抱え
 ながらも、誰もが自分らしく生きることのできる世界を
 実現しようとしているのです。その流れを押し進め、原
 動力となるのが仏法者の生き方です。

高等部出身のある先輩は、脳梗塞で倒れた後、半身まひ
 になりました。そんな自分だからこそ、身体が不自由な人
 たちの希望になりたいと、以前から考えていた演劇の道
 を目指すように。しかし現実には厳しく、思ったような演技が
 できず、舞台上に立てなかった日もありました。それでも、
 苦難に打ち勝とうと、題目に挑戦。友と語りながら、人間
 性を磨き続けました。

そんな中、参加したオーディションで、すべての質問に
 生命力を湧き出して答えると、「君と芝居をやってみたい」
 と、5000人の中から準グランプリに選ばれたのです。

池田先生は次のご指導されています。

「真の『心の変革』は、『現実の変革』を約束するのです。『わ
 が心』すなわち生命境涯を深めていくことが、人間革命の
 宗教の真骨頂です。功德とは、わが生命の変革にほかなら
 ないからです」

さあ、夏休み本番！時間を有意義に使い、成長の夏にし
ていきましょう！